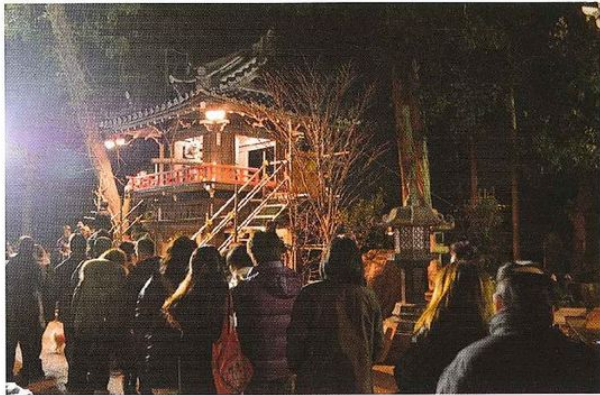
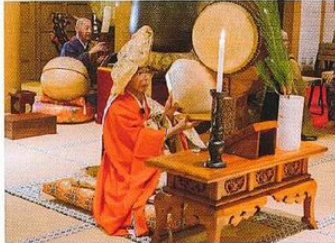


萬福寺の行事はどなたでも参加できます。



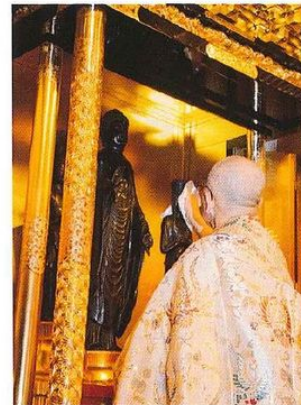
安本利正ご住職様はじめご僧侶の転読（写真右）のあと新年の無病息災を祈る参列者（写真上）



去る12月31日の大みそか、午後11時から多くの参詣者が参列して正月大般若会御祈禱誦経が執り行われました。安本利正ご住職様はじめご僧侶の皆さまによる厳かな中にも華やかな転読（大般若波羅蜜多心経）全600巻をめぐり読誦が行われ、今年1年の感謝と、新しい年の幸福を祈って参加者全員で手を合わせました。

その後、心なしか寒さのゆるんだ境内の鐘樓門では除夜の鐘つきが行われました。境内には大きなストープが置かれ、護持会の皆さまの御奉仕による甘酒で暖をとりながら幾重にも列をつつた420名余の参詣者が、新年の無病息災を願って鐘をつきました。なお、正月大般若会御祈禱誦経は正月三が日にも行われました。

新しい年の無病息災を願って 除夜の鐘つき、正月大般若会御祈禱誦経



安本利正ご住職様のお身拭いで光り輝く御本尊



中央は大きな阿彌陀如来立像、右は少し小さい観音菩薩立像、左は勢至菩薩立像

昨 年12月14日午前11時から本尊阿彌陀如来三尊仏の沐浴（お身拭い供養）が護持会の皆さまはじめ多くの参詣者が出席するなか執り行われました。御法要に続いて、安本利正ご住職様が

御開帳になった三尊仏を木綿の浄巾でお清めし、1年の埃を払い、新年を迎える準備が整えられました。なお、御開帳はこの日のほか、正月二が日も行われました。

本尊阿彌陀如来三尊仏の沐浴式・御開帳

平成25年12月14日（土）



御本尊を間近で拝観しながらご焼香する参列者

〔安本利正ご住職のお言葉〕
毎年お身拭いの儀式を行っています。浄巾でお顔をなで、肩から全身をお身拭いするたびに、この黒光りした仏像のなかに阿彌陀様があらわれるのだな」との思いを新たにいたします。もともとは金箔で光っていましたが、250年ほど前の江戸時代の半ば、明暦年間に本堂とともに火災に遭い、金箔が消えてしまいました。考えてみますと、黒光りでお身拭いしています。大変な驚きです。言い伝えによりますと、ある年、お身拭いの行事を休んでしまったところ、翌年に病がはやって大変な目に遭い、さっそく反省してお身拭いを行ったところ病気が消えたそうです。また、昔はお身拭いしたとき「布」を小さく切って参詣の人に分けたという話が残っています。さ

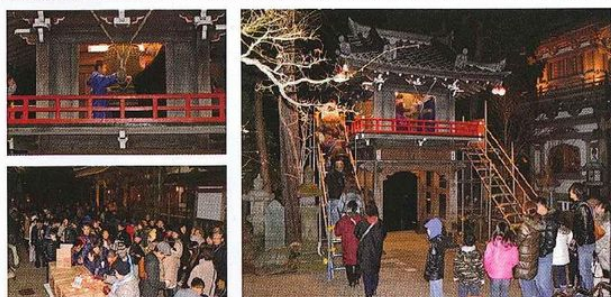
御本尊

萬福寺の御本尊様（善光寺式阿彌陀如来三尊）は高さ88cmもあり、この様式では日本で2番目の大きさです。「三尺仏あるいは半身仏」と呼ばれ鎌倉時代初期（1200年代前半）の立派な三尊仏です。

中央には大きな阿彌陀如来立像、右に少し小さい観音菩薩立像、左に勢至菩薩立像を配し、芸術性においても高い技量を感じさせる由緒ある立像です。

〔善光寺式阿彌陀三尊〕

善光寺式阿彌陀三尊とは、信州の善光寺の本尊仏を模した形式とされています。中尊の阿彌陀如来は大衣を両肩にまとい、左手を垂下して第二指と第三指を伸ばし、他の指を折り曲げて、刀印と称する形を表わし、右手は華指を前に向けて金指を伸ばして、施無畏印と称する形を表わしています。右の脇侍は観音菩薩で至賢に仏像をつけ、左の脇侍は勢至菩薩で三冠に水瓶をつけています。両像とも両手を胸前で掌を合わせた形をしています。



大型ストープで暖をとりながら列を作って鐘つきの臉巻を待つ参拝者



大人も子供も人振りきりで300人分のもちをつきました

万福寺 梶原殿まつり

平成26年2月1日（土）、3月1日（日）

「もちつき大会」「びっくり朝市」を開催

萬 福寺梶原殿ホールでは2月1日（土）、3月1日（日）の両日に「梶原殿まつり」として、「びっくり朝市」を午前9時から、「もちつき大会」を午前11時から開催し、地域の皆さまと交流を図りました。



新鮮な野菜が売り出される「びっくり朝市」は毎回、新鮮な野菜が売り出されるとあって、すでに地域の皆さまから好評をいただいています。また「もちつき大会」では、もちつきを体験しようと子供たちが集まり、大人の力を借りて重い杵を振り下ろしていました。つきあがったお餅は皆様にプレゼントされました。梶原殿ホールでは地域貢献として、住民参加型のイベントを開催しています。次回開催時にはお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。